

## 第2回 旧広島陸軍被服支廠 安全対策・価値調査等検討会議（議事要旨）

日時 令和4年10月24日（月） 13時～  
場所 広島県庁自治会館 101会議室  
（WEB開催併用）

### 1 開会

事務局より開会挨拶，委員紹介

### 2 議題

- ・旧広島陸軍被服支廠に係る文化財指定に向けた価値調査及び安全対策等工事実施設計について

事務局 資料2により説明

（質疑応答）

長谷川委員 設計主体について，組織としては分かっていたが，その中の個人名が出てきたのは重要なことと思う。ただ，どういう部分の設計をしたか，構造設計という観点からすると，カーン式鉄筋が採用されていることから，当時のアメリカのトラスコン社が構造設計まで担当したのではないかということが考えられ得る。カーン式鉄筋だけを使って設計は陸軍省経理部でやったのか，アメリカからの技術がそのまま入ったのかどうか，そういったことも調べれば設計に関する内容が豊かになる。

また，設計に当たっての寸法の考え方なども，設計の原図が出てくれば明らかになるのだが，出てこないという話なので，まだ時間がある中で調査を進めてほしい。

施工体制についても興味がある。軍における施設として，直営でされたのか，請負でゼネコンを入れたのか分からないが，先ほどのカーン式鉄筋の話とも関係して，施工体制，施工システムも分かってくれば，建物としての技術的な価値に反映できると思う。

中川委員 菊間瓦が当初からのものというのは，非常に大きな発見であり，その13%が残せるというのは，少ないと思われるかもしれないが，瓦は傷みやすくて雨漏りの原因になるものなので，モルタル栈木の扱いと併せて大きな成果だと思う。

文化財としての価値調査は綿密にされていると思う。文化財としてのオーセンティシティ，真正性が価値の中核となるが，それを維持するために補強や修理をどのようにするかというところが難しい。今回，綿密に検討をして，対策を練った結果を聞いた。補強について，見える化したということはよいことである。やむを得ず補強をするが，オリジナルなオーセンティシティを隠してしまわないということが大事で，補強が必要で安全性が保たれているということを見て理解できる。他の文化財でも問題になるところであるが，今回の成果と言ってよいと思う。

千田委員 瓦が明らかになったということだが、この建物の一番のポイントは煉瓦。煉瓦には刻印がたいい入っている。調査をしたときに、使われている煉瓦に刻印はなかったのだろうか。当時、煉瓦は広島県内で十分供給できたもので、海軍がたくさん煉瓦の建物を作ったときに安芸津に近代的な工場を作った。それから、陸軍は能美島の煉瓦を使っていたと聞いているが、こうした由来をもう少し調べられないか。

また、鉄については、経済史的に言うと、ちょうど被服支廠倉庫が建設されたころから、八幡製鉄の鉄が使えるようになっており、江田島の火薬庫でも使われている。それ以前はアームストロング社などのものとなるが、柱(の鉄筋)の何本かに一本は刻印があるのではないかと思う。

もう少し、素材の状況が分かれば。

中川委員 関東では、明治期の物で、刑務所の刻印が入っている煉瓦が結構発見されている。エジプトの日干し煉瓦でも王様の刻印が必ず出てくる。近代化が進むにつれてだんだん刻印を付けなくなってくることはあるが、たぶんあると思うので、ぜひ探してほしい。

長谷川委員 煉瓦の刻印については、その平面に打ってあることが多く、積んでしまうと隠れてしまう。見つけるとすると、軒などで平面がでているので、そこを確認すれば、もしかすると見ることができるともかもしれない。ただ、全数ではなく、だいたいは何個かに一つというものである。

刻印があったとしても、意味不明なマークの場合もあるが、刻印の形でどこメーカーかという研究もされているので、参考にして、調査するとよい。

藤田委員 安全対策等工事の際には、学校として使用されていた際の黒板などの痕跡や、被爆時の損傷、経年の汚れなど、こういったものを保護した上で工事をするように、工事中に消えたり傷んだりしないように対策を行ってほしい。

千田委員 戦後になると失われたものが非常に多い。当時、軌道を引き込み、縦横に張り巡らせたということが分かった。倉庫として使うときには物流が大切だということで、建物の中にも引込み線を作った。江田島の火薬庫の例では、戦後、昭和30年代にアメリカ軍がトラック輸送に切り替え、軌道を撤去し、建物の戸口も大きく改変している。こうした物流面から考えて、当初のものを改変したことが考えられる。今のうちに、軌道の痕跡や扉の改変など、確認しておく必要がある。

大久保委員 調査や設計が進んでいることについて喜んでいる。

妻壁の補強について、頬杖をつけて曲げ耐力を増すということが主眼と思うが、長手方向に上から日射を浴びることで、屋根スラブが伸縮する。対策工事で妻壁を一体化することにより、妻壁下部のひび割れが拡大することにつながるのではないか確認をしてほしい。

事務局 指摘の点については、チェックを重ね、検証結果を報告したい。

楠委員 大久保委員の指摘はもっともである。

煉瓦壁だが、耐震壁の開口補強の考え方を使って、少し周辺に穴が空いていることで生じる引っ張り力を処理できるのかどうか、確認してもらいたい。

千田委員 海軍の建物では避雷針を必ずつけている。被服支廠倉庫には避雷針はなかったのか。

事務局 現状を確認する避雷針の跡は見えない。あったものが撤去されたのかどうかということは判明していない。

後藤会長 屋根瓦が当初のものであるので、避雷針があったとすれば、棟瓦に何らかの痕跡があるはず。原爆の被害によってなくなってしまったのかもしれないが、あったのであれば調査はできる。

藤田委員 安全対策工事を行う段階で、今まで見えていなかったものが明らかになってくる。文化財として扱うということであれば、工事の積算に当たっては、調査という項目も必ず入れて、工事に伴って新たに分かってくる文化財的価値の情報を蓄積していくという考え方で進めてもらいたい。

後藤会長 今日、出された意見は、煉瓦や鉄、施工など追加調査をお願いするということになるが、今年度、時間の限られた中で、調査を全てやることは難しいと思う。引き続き、改修に入ったときに、藤田委員からもあったように、若干の追加調査ができるようなことが望ましい。

大久保委員、楠委員の指摘事項は、施工に直結するので、事務局において確認を行うこと。スラブなどのクラックについては、ヨーロッパなどではターンバックルで押さえることをしており、外観上、補強が明らかになるが、しばしば行われていることである。工事としては、難しくなく、対応できるものと思う。

中川委員 文化財として、倉庫建築としての価値だけではなく、爆心地の近郊で、鉄筋コンクリート・煉瓦造りの大規模空間として残ったことが価値である。総合化したときにその価値が重要だということ、分析のためには価値を分類しながら整理することも必要だが、価値評価としては総合性が重要だということを念頭に置いておいてほしい。

後藤会長 意見を付け加えると、倉庫建築の特質とすると対象が広すぎて、比較対象が膨大なものになってしまうので、多棟数残っていることや混構造のものはなかなかないかもしれないが、煉瓦造のものなど、対象を絞って整理しないといけない。そうしないと、トータルの価値が浮かび上がりにくくなってしまう。

資料に挙げられている4つの特質は建造物としての価値だが、中川委員の言うのは、建造物・史跡を包含した総合的な価値と思うので、書き方としてはそういうイメージだと思う。

千田委員 今の意見に賛成である。一つ一つの視点に分解してしまうとどこも同じではないかということになる。広島陸軍施設の特徴をとらえて、こうした特徴の中でこの建物ができて、被爆し、その後も残って活用されたという一文が必要である。難しいが、広島における軍事施設とは何かということが、社会歴史

的なとらえ方と思う。

事務局

指摘に対して、現状について簡単にお答えする。

図面は、防衛研究所をはじめとして調査をしているが、現時点において、まだ発見にはいたっていない。追加でしっかりと調べていきたい。

それから、施工体制についても、地元の業者がされたのか、ゼネコンが関わったのか、調査を進めているところ。判明すれば、報告する。

煉瓦の刻印について、平和記念資料館に展示されている被服支廠の塀の断面も確認したが、まだ発見できていない。もう少し丁寧に建物を確認して、刻印の有無など調べていきたい。

引込み線、トロツコのレールがあったということは、平和記念資料館に所蔵されている写真にも痕跡として見ることができ、被爆者の証言からも明らかになっている。工事の際は、痕跡があるかどうかという点にも注意しながら進めていく必要があると考えている。

全ての調査が、今回までに完璧にできているわけではなく、工事をしていく中で、新たな発見、気づきというものもあると思う。工事ということになれば、そういった点にも注意して進めたいと考えている。

妻壁についての指摘もいただいた。妻壁は外見からもひび割れが生じていることが分かる状態であり、ここの安全性は重要であるという観点で検討を進めてきた。しっかりと確認して報告する。

まだまだこれからというところだが、期間は限られているが、引き続き取り組んでまいりたい。

後藤会長

それでは、事務局から説明のあった、旧広島陸軍被服支廠に係る文化財指定に向けた価値調査及び安全対策等工事实施設計について、いくつか課題を指摘し、事務局にも理解してもらったと思う。検討会議として、説明の内容で進めるということが良いか。

委員一同 異議なし

後藤会長

検討会議として了解したということとしたい。事務局においては、本日、指摘されたことを踏まえて進めてもらいたい。

事務局

年度末のとりまとめに向けて、新たな知見、発見ということがあれば、全体での会議ということは難しいかもしれないので、個別に協議、相談をさせてもらうこともあるかもしれない。その場合は時間の調整について、協力をお願いしたい。

後藤会長

各委員においても協力をお願いする。

以上